





害虫がつかないように、おいを出すんだ。  
 それが人間には心地よく感じるんだ。害虫に  
 は不快なおいなのに、おもしろいよね」  
 そう言っ、一冊の本を渡してくれました。  
 『森は生きている』という子どもの本でした。  
 お父さんの本棚には難しい本と一緒に子ど  
 もが読むような本もたくさんあります。ぼく  
 には不思議なことでした。  
 「大人がどうして子どもの本を読むの」  
 と、聞いたことがあります。  
 「大人だから子どもの本を読んではいけない  
 っ、ってことはないんだ。子どもの本だからって  
 うそは書いていない。子どもに間違ったこと  
 を教えては大変だから、内容は正確なんだ。  
 それに子どものときに読めなかった本がたく  
 さんあったから、今、読んでいるんだ。でも、  
 子どものときに読んでいたら、もつとドキド  
 キできただろうな。新しい発見したうれしさ  
 も感動も今以上だったと思うよ」  
 この本を手渡されたとき、お父さんが言った

言葉を思い出しました。  
 『森は生きています』は木について、そして森  
 についてたくさんのことが書かれています。  
 紙やゴムが木から作られること、木は接着剤  
 や薬品の原料になること、驚いたのはアイス  
 クリームにも木が使われていることでした。  
 他にもあります。森は水をきれいにしてく  
 れます。水を蓄えてくれます。洪水や山崩れ  
 から守ってくれます。気温を調節してくれま  
 す。そして海の魚も育ててくれます。もし、  
 木がなかったら、森が存在しなかったら、大  
 変なことになってしまいます。  
 『森は生きています』の中で印象に残ったのは、  
 人間がずっと森を守ってきたということです。  
 ぼくは、森は自然のものと思っていきました。  
 だから人間が手を加えるのはいけないことだ  
 と考えていました。しかし、人間が手を加え  
 て管理をしないと、森がだめになってしま  
 うというのです。これにはびっくりしました。  
 木を切ることは森を守るためには必要な行

為だそうです。森が込み合ってしまうと、木は枯れてしまします。それを防ぐために、成長した古い木を切って、これから成長する小さな木に光を与え、風を入れてあげます。切り出した木は木材や燃料として利用します。このように木を育てては伐採してを繰り返しながら、人間は森を守ってきました。人が森を守るお返しに、木々は多くの恵みをもたらしてくれるのです。さらに森や木には大きな役割が期待されています。それは、暖かくなってしまった地球や都会の温度を下げることです。地球温暖化ということを耳にします。石油や石炭を燃やしたあとに出る二酸化炭素が地球を暖め、気温が上がってしまう現象です。地球が暖まると南極や北極の氷が溶けて、陸地の一部が海になったり、気候の変動をもたせたりする怖い現象なのです。その原因となる二酸化炭素を木は吸収してくれます。温暖化防止には、木がどうしても必要なのです。

温暖化の他にもヒートアイランド現象があ  
 ります。都会ではコンクリートの建物や、ア  
 スファルトに覆われた道路が、昼に吸収した  
 熱を夜に放出します。だから夜になっても涼  
 しくなりません。ガソリンを燃料にした自動  
 車が熱を発します。エアコンの室外機からは、  
 熱風がはき出されます。しかし、都会にも  
 木々がたくさんあれば、温度を調整してくれ  
 ます。緑の葉が茂った木々を作る陰も暑さを  
 和らげてくれます。木陰は夏の暑い日、ほっ  
 とした気持ちになれるオアシスになります。  
 森は単に木が集まった場所ではありません。  
 自然が引き起こすさまざまな災害の盾になっ  
 てくれます。木は人間のぜいたくが作り出し  
 た温暖化やヒートアイランドを和らげてくれ  
 ます。ぼくたち人間の守り神なのです。  
 『森は生きている』から、木や森の役割や恵  
 みを知る事ができました。これからは木や  
 草花に感謝の気持ちを持って、大切にしたい  
 と思います。